

共産党の議席がふえたら

歴史の事実で見ると

戦前

党創立以来の「公約」が戦後の憲法に

「侵略戦争をやめて平和の国に」「主権在民の民主主義制度を」
——戦前、日本共産党は命をかけて、この旗をかかげつづけた。
この国民への公約は、戦後の憲法に、しっかりとみのった。

70年代

衆院38議席で「国会ガラスばり」

1972年の総選挙で、野党第2党に躍進し、密室談合がくりかえされていた国会が一変。

ロッキード疑獄の真相究明の先頭にたち、前首相逮捕にむすびついた。「狂乱物価」をひきおこした大企業の追及、米潜水艦の放射能データねつ造を告発、183日間寄港をストップさせるなど、政治を動かした。

90年代 おわり

参院23議席で

「消費税減税法案」提出

大銀行への税金投入か、消費税減税かが大争点の98年参院選で、史上最高の得票をえて日本共産党が躍進。

公約どおり、「消費税を3%にもどす」法案を国会にだした。

「日本共産党をのぞく」体制が崩れ、野党共闘もはじまった。



「共産党勝って『増税なし』サンキュー」(『週刊新潮』) 79年の総選挙。
一般消費税導入をいじだした自民党内閣にきびしい審判がくだり、日本共産党は41議席に躍進。政府は増税を断念した。



いま 衆参16議席でも、国民の願いを実現。もっとふえれば…

- 戦前・戦後をつうじてはじめて、海外派兵された軍隊をよびもどす。
- 阪神淡路大震災以来、いっかんして住宅の修理にも公的支援ができるように要求、ついに被災者支援法が改正。
- 残業代をゼロにする「ホワイトカラー・エグゼンプション」に反対の論陣をはり、政府は提出を断念——いまでも日本共産党の議席は、政治を動かしている。この議席をもっとふやせば、もっと政治を変えられる。